



「アベノミクス」と 公共施設の整備

～社会的イノベーションとしての
PFI、PPP～



株式会社 日本経済研究所 地域本部

研究主幹 柳内 久俊

デフレ経済からの脱却をめざした新政策「アベノミクス」の展開により日本経済は活性化しています。新政策で民間主導による公共施設の整備手法として期待されるPFI、PPPの地域経済での位置づけについて紹介したいと思います。

「新たな公共」としてのPFI、PPP

東日本大震災から2年経過したが、被災地の本格的な復興事業は生活基盤および産業基盤共にこれからという状況である。茨城県は津波による被害は比較的軽微であったが、内陸部では強い地震により農地、住宅地の広範囲な液状化、老朽化した市庁舎、学校、上・下水道等の倒壊、破損など各地で大きな被害を受けた。被災後の復旧措置により概ね回復をみているが、施設の再建については漸く具体化しているところである。

復興財源は復興交付金の申請、合併特例債の利用など自治体により分かれるが、これまでの手法に代わり「新たな公共」として注目されているのが、PFI（民間資金を活用した施設整備）、PPP（官民連携）を活用した公共施設の整備である。

今回はPFI、PPPについて、特に地域の社会的イノベーションとも言えるような活用のあり方について論じてみたい。

「骨太の方針」での役割

6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」、「日本再興戦略（成長戦略）」において公共投資の分野でPFI、PPPの事業拡大が盛り込まれたが、政策的には年初からの金融政策の転換（量的・質的緩和）による日

銀のマネタリーベースの増加および円高是正で経済環境が好転してきたため、これまで政府投資でカバーされて来た公共投資の分野にも民間資金を積極的に誘導して財政負担の軽減を図るものである。国内景気の回復、輸出増加により将来への期待が高まることで企業の設備投資が増え、さらに企業収益の改善により所得の向上および雇用の増加へと結びつくことが求められている。

少子・高齢化が進む中で、今後年金、医療・介護等の社会保障費が増大すれば財源不足で公共施設の整備はきわめて限られたものになることが予想され、既存施設の維持・管理・改修費も負担増が見込まれる。昭和40～50年代の経済成長期に整備された公共施設およびインフラ施設は耐用年数を超えて老朽化、機能の陳腐化等により徐々に更新投資が迫っているが、従来のパターンでの再投資は難しく、施設の優先度、さらに広域での集約・共有化によるスケールメリット（規模の利益）を考慮した選択的な投資を余儀なくされるであろう。投資効果、施設の運営等を踏まえた更新投資についてはPFI、PPPの活用には優位性が期待されている。

中・長期での地域社会への波及効果

公共建築物の建設は地域の顔を演出するものとして著名な建築家等の作品が話題になるが、確か

に地域の個性を反映したデザイン、木材・石材等の地域固有の建材の活用など地域主体の事業としても情報発信の貴重な機会である。PFI、PPPの導入はこうした地域主体の公共施設に付加価値をもたらすものである。具体的には、企画・設計の段階から完成後の維持・管理に至るまで民間企業が参加することで、実践的な技術導入、施設運営等によりコスト・ベネフィット（費用・便益）分析の視点から効率化、サービス水準の改善が実現できることである。公共投資はあくまで地域の予算なので地元へ還元するものと言われているが、サービスの消費者である市民、施設の役割等からみれば事業手法も提供されるサービス本位で選択されることになろう。

公共施設の運営とサービス提供

これから再建を予定している市庁舎、学校等についてはデザインだけでなく防災・情報機能など地域の拠点施設としての多様な機能の具備が必要であり、民間企業の技術・施設運営の蓄積を継続的に活用することが有効である。都市公園について

も災害時の避難・支援拠点としての機能が求められている。

地域のコミュニティは小学校の学区単位で維持されることが多かったが、少子高齢化の進捗で困難になっており、新たなNPOあるいは任意団体によりコミュニティ・ビジネスとして行われることが増加している。PFI、PPPは複数企業でSPC（特別目的会社）を形成する契約ビジネスであるが、こうした組織が事業に参加することも考えられよう。

地元中心の対応ではなく人材も含めて積極的なグローバル経営を図ることで高齢化社会の到来、財政負担の増加等の社会的な環境変化も吸収できるのではないか。被災地の区画整理事業、災害公営住宅の建設など復興事業においても神戸の震災復興経験者等を活用している地域は比較的早期に事業を具体化していることが報じられている。中・長期での地域の人材育成、雇用の創出についてもPFI、PPPは公共サービスに関連した分野で多様な展開が期待されるものと思われる。

